

経営比較分析表（令和6年度決算）

茨城県 鹿嶋市

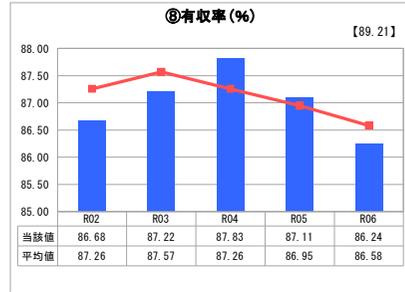
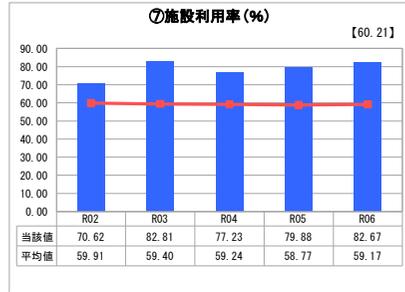
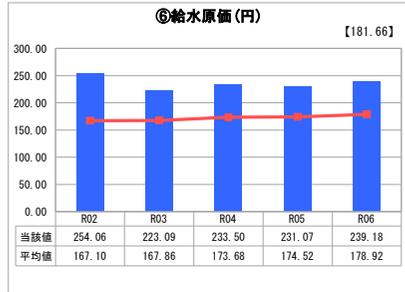
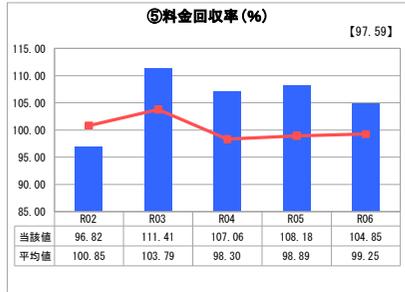
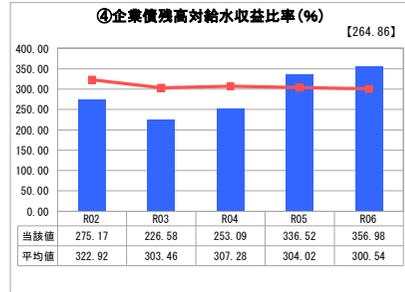
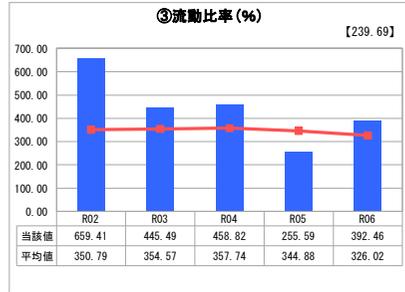
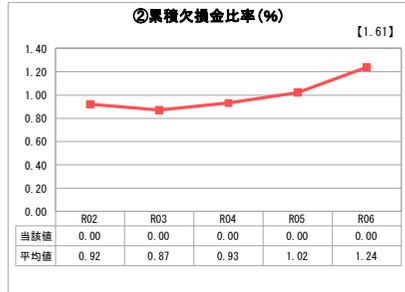
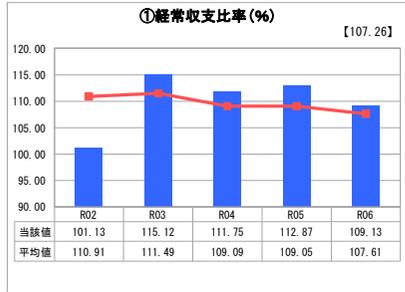
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	53.81	83.28	3,905	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
65,217	106.04	615.02
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
53,953	106.04	508.80

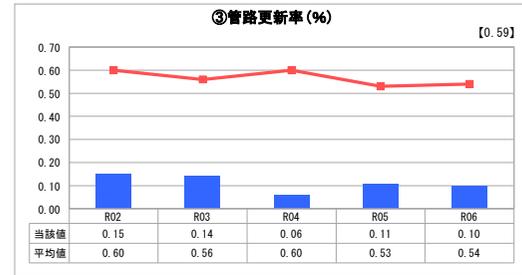
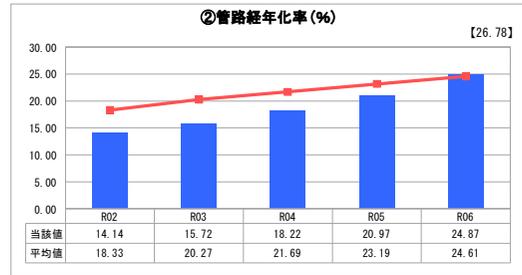
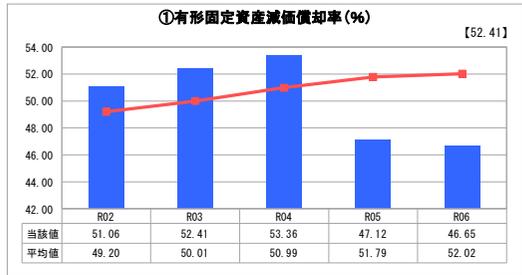
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常費用が増加したため数値は昨年と比べて低くなったものの、類似団体平均は上回っている。
 ② 累積欠損金は発生していない。
 ③ 令和5年は新設配水場の建設に伴う支払いの関係で一時的に流動比率が低下したが、令和6年は再び類似団体の平均を超える値となった。
 ④ 新設配水場の建設に伴い、令和5年度に1,681百万円、令和6年度に712百万円の企業債借入を行ったため、令和4年度から比べて比率は増加しており、類似団体平均値も上回る結果となった。
 ⑤ 給水収益が令和5年度と比べて増加したものの、給水に係る費用が増加したため料金回収率は減少した。ただし、類似団体平均は上回る結果となった。
 ⑥ 年間総有収水量が増加したものの、経常費用が増加したため給水原価は増加した。また、類似団体と比べると依然高い数値のままである。これは、給水人口密度が低いことから、配水管の延長が長くなり、経常費用が割高となる傾向があるためである。しかし、経営としては黒字が続いているので、現在の水準は適正であると考えられる。
 ⑦ 1日平均配水量が増加したため、昨年と比べて施設利用率は増加した。
 ⑧ 漏水などの無収水量の増加により、有収率は減少し、類似団体平均を下回っており、対策が必要となる。具体的対策として、令和8年度にAIによる管路診断を実施予定であり、漏水の危険性が高い管路を洗い出し有収率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

① 新設配水場の建設に伴う配水池や配水管の完成に伴い、有形固定資産減価償却率は令和5年度より大きく低下している。類似団体平均と比べても大きく下回った結果となっている。
 ② 類似団体平均と比べるとやや上回る結果となった。数値が増加傾向であるため、今後も法定耐用年数を超えた管路は増加していく見込みである。老朽管更新計画や令和8年度実施予定のAI管路診断の結果を踏まえ計画的かつ効果的に管路の更新を行っていく。
 ③ 管路更新率は類似団体平均と比べると低い水準となっている。今後も配水場の建設のため同水準となることが予想されるが、引き続き計画的に管路の更新を行っていく。

全体総括

経常収支比率は常に100%を上回っており、その他の指標を見ても、経営の状況は健全だと言える。しかし、令和4年度より着手している新設配水場の建設に伴い、施設整備に係る投資額が増大しているため、流動比率や企業債残高対給水収益比率に影響を及ぼしているところである。本市の給水収益は企業などの大口利用者の利用量に影響される部分が大きいため、企業などの水需要の動向と投資による各指標への影響は今後注視していく必要がある。老朽化については、法定耐用年数を超えた管路は増加の一方で、管路の更新率は類似団体の平均を上回った状況となった。老朽管更新計画及びAI管路診断結果に基づいて計画的かつ効果的に管路の更新を行っていく予定である。